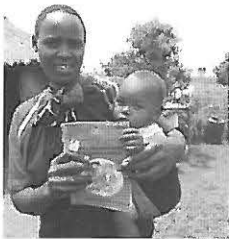


Title	「アフリカにひろがる母子手帳」
Author(s)	板東, あけみ
Citation	目で見るとWHO. 2013, 52, p. 17-20
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86721
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University



「アフリカにひろがる母子手帳」

国際母子手帳委員会 板東 あけみ



Akemi BANDO

国際母子手帳委員会 (International Committee on Maternal and Child Health Handbook) ベトナムの子ども達を支援する会事務局長、HANDS テクニカルアドバイザー、2009年大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位満期修得退学。2012年10月の第8回国際母子手帳会議(ケニア)日本側の支援委員会事務局長。アジアやアフリカなどいくつかの国の母子健康手帳の開発に協力をしている。日本も含めて家族が大事に思える母子手帳の開発は、将来への大きな効果がある事を信じている。

母子手帳は世界で初めて日本が開発して1948年から使い始めました。現在約30カ国が母子手帳を全国あるいはパイロットとして使用しています。そして今アフリカにも広まりつつあります。

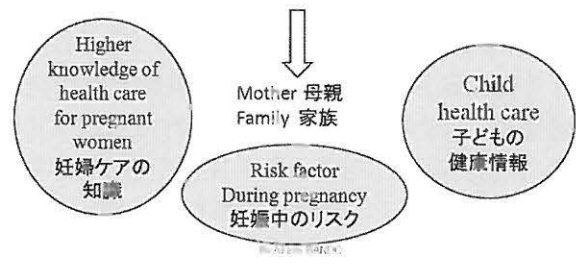
録が大きく分けて3種類出回っております。アフリカで言いますと例えばエリトリアのようにカードを折っ



現在、世界には家庭保管の母子保健に関する記

What is Maternal and Child (MCH) Handbook?
母子手帳とは？(by Prof. Nakamura)

家族により家庭で保管されている記録で、
母親と子どもの健康を促進・維持するもの。



たような複数の物ですが記入される情報量は少ないです。次にベニンやガーナのような母親用と子ども用の2冊にわかれている物です。最後にウガンダ



やケニアのような母親と子どもの記録が1冊になった母子手帳です。これは子ども一人につき1冊あります。

母子手帳国際会議

- | | | |
|-----|----------|--------------------------|
| 第1回 | 1998年12月 | 東京 日本 |
| 第2回 | 2001年09月 | Manado Indonesia |
| 第3回 | 2003年08月 | Bogor Indonesia |
| 第4回 | 2004年12月 | Bangkok Thailand |
| 第5回 | 2006年11月 | Bentre Vietnam |
| 第6回 | 2008年11月 | 東京 日本 |
| 第7回 | 2010年12月 | Dhaka Bangladesh |
| 第8回 | 2012年10月 | Nairobi Kenya |
| 第9回 | 2014年 | One of country in Africa |

母子手帳とは、家族により家庭で保管されている記録で、母親と子どもの健康を促進・維持するものであり、その使用により母親や家族は、妊娠中から出産そして子育て中の健康に関する医療記録や情報を得て、知識や意識の向上を図ることができます。

また、母子手帳の内容はその国が行う母子保健に関する国家政策、例えば予防接種事業や栄養失調対策事業、母乳促進事業等を総合的に反映するもので、非常に重要な知識普及の役目ももっています。

大阪大学大学院の中村安秀教授が中心になって1998年に初めて母子手帳国際シンポジウムが開催されました。途中で母子手帳国際会議と名前を変えて、現在まですでに8回開催されています。

2012年10月に行われた第8回母子手帳国際会議は初めてアフリカで開催されました。ミレニアム



Dr. Miriam Were 博士

開発目標の最終年2015年を目前にして母子保健に関する4と5の分野でまだ多くの課題を残しているアフリカでの開催は大きな意味があると考えたからです。アフリカ以外の9か国と合わせて、アフリカ54か国・地域の中から、ケニア、ウガンダ、ルワンダ、南スーダン、ガーナ、マダガスカル、レソト、マラウイ、ブルンジ、ガボン、セネガル、カメルーン、ザンビア、モロッコの14か国が参加しました。合計4日間の会期中も多くの参加者が熱心に経験発表や討議を繰り返していました。

この第8回のテーマは、「ミレニアム開発目標4と5を達成するための母子手帳の使用」でした。まさにアフリカの抱えている大きな課題の克服の為に母子手帳への期待がかけられているテーマでした。

2008年の第4回「アフリカ開発会議」で第1回野口英世アフリカ賞を受賞されたDr. Miriam Were博士は、この母子手帳国際会議のアフリカへの誘致と開催に向けて、母子手帳を全国で使い始めたばかりのケニア政府へ大きな働きかけをされました。Were博士はそのスピーチの中で、アフリカ大陸を構成する5つの地域からの参加者が、それぞれ自分の地域の中で母子手帳の開発と使用の要となるための行動を行うよう、強くよびかけられました。

母子手帳国際会議の最終日には、「行動のために、アフリカは一体になろう！母子手帳の効果的な利用で」。2015年のミレニアム開発目標4番、5番の到達の加速を！と、具体的なアクションを起こすことが参加者に強く呼びかけられました。

その中には、「全てのアフリカの国々へ、継続的ケアに沿って母親・新生児・子どもの健康のために高

い効果の介入の対象を加速するための1つの効果的かつ統合的なツールとして母子手帳の使用を要請する! 私達は、すでに母子手帳を持っている国々には更に効果的に使用するための改訂を、持っていない国々には緊急性を持ってその開発と使用をとりあげてを要請する。」と書かれています。そして、本会議の2年後の成果をお互いに確認するために、2014年の第9回母子手帳国際会議を再びアフリカで開催することが満場一致で確認されました。

実際に参加国の中には、その後本会議の報告を自国の関係省に行っている国々があります。ガボンでは母子手帳の使用開始に向けて勢いがありました。

ケニアでは、この会議の終了後以下のような具体的な行動がなされてきました。保健ケアワーカー向けのジョブエイドの普及が行われ、県・現場レベルでの母子手帳活用に関する意識の向上を目指しています。また母子手帳の内容のアップデートを中心とした改訂が行われ、2013年1月に改訂版が完成し、現在印刷中です。更に母子手帳の電子化(Electric Medical Record System)のパイロット検証が始まり、JICAとオックスフォード大学と共同で実証検証が行われています。



母子手帳の導入間もない時には、使い勝手の悪い部分や足りない内容が出てきたら改訂の労は惜しまない姿勢が重要です。左がケニアの初版の母子手帳の表紙で、右が今年改訂した第2版の母子手帳です。どこが違うかわかりでしょうか? そう、初版本は表に名前を書く欄がないので一々5ページ目をあけて名前の確認が必要でした。また、教育レベルの低い母親や父親に、いかに母子手帳の重要性を



理解し愛着をもってもらうかを考えることは母子手帳紛失のリスクを減少することにもつながります。これが医療機関にあるカルテと大きく違う点です。ケニアの初版本の母子手帳の表紙裏は白紙で、その次はいきなり情報から始まっていました。しかし、第2版の改訂版には、白紙の所に下記のような事が書かれました。「親愛なるお父さん、お母さん、この度は妊娠おめでとうございます。保健省は妊娠をお祝いするためにこの母子手帳をプレゼントします。ご家族の皆さままでこれをしっかり読んで内容をよく理解して下さい。もしも分からない事があれば、医療職員や地域のヘルスワーカーに遠慮なしにお尋ねください。」この後には、いつも医療機関へ持っていく事や5歳を過ぎても大事に保存して子どもが成長したら親からの贈り物として渡す事、子どもがこれを読んで親の愛情などを感じる事などが記載されています。

これはジブチの母子手帳です。ジブチは第8回母子手帳国際会議には参加していませんでしたが、ユニセフの協力を得て、一度途絶えた母子手帳を2013年1月に改訂・復活しました。

これからアフリカはもとより世界の開発途上国で母子手帳の開発がおこなわれると思います。それを効率的に行うためにいくつかの課題があります。初めにその国の国内外の関係各機関が母子手帳に統合する共通認識を持つことが重要です。それに基づきその国の政府の高い指導性と熱意が必要となります。導入時には、その国をサポートする国連、ODA、NGOが、それぞれの事業ごとに記録する物を発行せずに、その印刷費を政府に入れてその資

金で母子手帳の印刷費やジョブエイド(ガイドブック)の印刷費・研修経費に充当するような連携がなされずと、何種類もの記録する物が現場にあふれるような混乱が減少します。

国家の強い意志で母子手帳の全国使用に歩み出したケニアが今後一つのモデルとなって、アフリカ各国に母子手帳が広がって行くことを母子手帳国際委員会の一員として心から願っております。何かございましたら下記の写真の母子手帳国際委員会のメールアドレスへご連絡してください。どうもありがとうございました。

